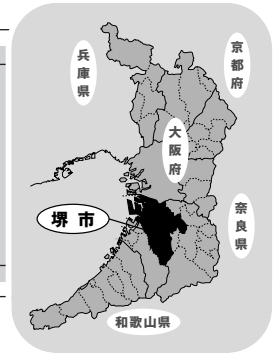


# わたしのまちのPR

ピーアール

## 堺市編



堺市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、北は大阪市、北東は松原市、東は羽曳野市、富田林市、南東は大阪狭山市、河内長野市、南西は和泉市、西は高石市に接しています。

市域の大半が市街地整備されており、特に北西部は平坦で、古くからの工業地や商業地が多く市街化が進んでいます。大阪湾に面する臨海部とその周辺地域は工業地域であり、他の地域も住宅が整備されるなど、ベッドタウンとしても機能しています。

市内には南海線や高野線、JR阪和線や泉北高速鉄道、地下鉄御堂筋線、阪堺線といった多数の鉄道路線が走っています。

幹線道路としては、阪神高速道路湾岸線、堺線などがある他、国道26号・309号・310号線や大阪中央環状線、大阪臨海線、大阪和泉泉南線などが通っています。

この堺市の魅力や特色について、財政局企画部政策企画担当課長の西川さんにお話をお伺いしてきました。



本日はよろしくお願ひします。  
早速ですが、堺市の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお願ひします。

本市の歴史は旧石器時代にまでさかのぼり、約2万年前の南花田遺跡で、多くの石器が見つかります。つづく縄文・弥生時代では、四ツ池遺跡などに集落が営まれました。遺跡から土器や銅鐸などが発掘され、古くから人々が定住していたことが確認されています。

古墳時代の4世紀後半から5世紀後半にかけて、仁徳陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群や黒姫山古墳などの古墳が次々と築造されました。

平安時代に、この地が摂津・河内・和泉の3国の境に位置していることから、「さかい」と呼ばれるようになりました。

南北朝時代には、諸国の廻船が発着する港へと発展していき、室町時代には日明貿易（勘合貿易）、戦国時代には明や東南アジア方面での貿易で栄えました。その様子は、来日した宣教師によって「東洋のベニス」と称されました。

つづく安土桃山時代、貿易港としての地位はゆるぎないものとなりました。戦乱から町を守るために濠を周囲にめぐらせた環濠都市を形成し、わが国の経済、文化の中心として繁栄しました。しかし、織田信長や豊臣秀吉らにより攻め込まれ、自治機能が解体されました。

その後、豊臣秀吉により堺商人の多くが大坂へ強制移住させられたことや、江戸時代に行われた大和川の付替工事の影響で堺港の港湾機能が縮小したことで、堺の勢いは弱まりますが、江戸時代後期に入ると、再度活気を取り戻すようになりました。

明治以降は紡績やレンガ産業を中心に、次第に工業都市へと変貌を遂げていき、臨海コンビナートの発展とともに、阪神工業地帯の一角を占めるようになっていきました。

明治22年に市制施行、平成8年には中核市に移行、平成17年に美原町と合併し、平成18年4月1日に政令指定都市に移行しました。

堺市の名所を教えてくださいませんか。

はい。本市のほぼ中央東西約4km、南北約4kmの範囲に広がっている、百舌鳥古墳群があります。古墳時代には、この一帯に100基を超える古墳が造られたといわれていますが、都市化の進展などによって、現在は半壊状態のものも含め、前方後円墳23基、円墳19基、方墳5基の47基の古墳が残っています。

中でも仁徳陵古墳は、5世紀後半に造られ、墳丘の長さは486mで、くびれ部には造出しがあり、周囲を三重の濠が巡っています。周囲の三重の濠を含む全長は840mもあり、エジプトのクフ王のピラミッド、中国の秦始皇帝陵と並ぶ世界三大墳墓の一つとされています。

仁徳陵古墳



このほかにも百舌鳥古墳群には、日本で3番目に大きい履中陵古墳（墳丘長360m）、8番目に大きいニサンザイ古墳（墳丘長290m）など、日本有数の巨大前方後円墳が含まれています。

百舌鳥古墳群を保存・継承し、歴史文化を活かしたまちづくりを進める一環として、本市では古市古墳群（羽曳野市・藤井寺市）と共同での世界遺産登録をめざして取組を進めています。

また、南海線七道駅の南東に、江戸時代初めに建築された町家「山口家住宅」があります。

山口家住宅は切妻造の2階建てで、敷地面積は約950平方メートル。1階の太い梁のかかった広い土間が特徴的です。国内でも数少ない江戸初期の町家のひとつであり、近世初期の町家を知る上で、全国的に見ても貴重な建物として、昭和41年に国の重要文化財に指定されました。

山口家住宅（内部）



平成19年に本市が建物を譲り受けてから、耐震補強をかねた改修工事を行い、平成21年10月26日から新たに「堺市立町家歴史館 山口家住宅」としてオープンし、誰でも伝統的な堺の町家暮らしを感じることができるようになりました。内部では、堺観光ボランティアガイドによる案内もあります。

妙國寺



大安寺  
(障壁画)



歴史のある神社仏閣も、多数あります。

本市の中心部にある妙國寺は、堺の豪商出身の僧日珙上人によって16世紀に建立されたとされる日蓮宗の寺院です。商人や武士たちの信奉を受けて栄華を極めながら、二度にわたって焼失し、その度に復興されてきました。

その二度の大火をくぐりぬけて生き残ったのが、国の天然記念物に指定されている大ソテツです。このソテツは樹齢1000年余と称せられ、これにまつわる神秘的な伝説を残し、全国に知られています。

戦国時代、天下統一を志した織田信長は、その権力をもってこのソテツを安土城に移植したのですが、毎夜「堺へ帰りたい」という怪しげな声が城中に聞こえ城中を悩ますに至りました。激怒した信長が家来に命じソテツを切らせたところ、切口より鮮血が流れ、悶絶の様はあたかも大蛇の如く見え、強気の信長も気味悪がり、即座にこの樹を寺へ返し届けたといわれています。

このほかにも、堺には貴重な文化財が残されています。南宗寺は、堺出身の茶人千利休ゆかりの禅寺ですが、この寺の仏殿は国の重要文化財で、天井には、八方睨みの龍が描かれています。

また、大安寺の本堂には、4室にわたって、金地に様々な鶴、松、藤、山水などが描かれているふすま絵があります。17世紀前半の狩野派の作といわれており、本堂とともに国の重要文化財に指定されています。

春の特別公開で、これらの文化財を見ることができます。堺に残る貴重な文化財を、ぜひごらんください。

魅力ある名所がたくさんあるんですね。  
堺市の産業を教えてくださいませんか。

## 堺打刃物



江戸時代の初めには、タバコの葉を刻むたばこ包丁が堺で製造されるようになりました。その包丁の切れ味の良さは徳川幕府も認めるところとなり、幕府から包丁に「堺極（さかいきわめ）」の印を受けて販売したため、全国にその名をとどろかせました。その後、職人達はタバコ包丁の技術を活かして料理用包丁の製作をしました。堺の職人たちが持つ伝統的かつ高度な技術の結晶である堺打刃物は、昭和57年に伝統的工芸品に指定され、全国の料理人から愛用されています。

プロの料理人の90%以上が、使用しているといわれています。切れ味の良さ誇る堺包丁は、見た目の美しさや舌ざわりの良さを求める日本の和食文化には欠かせない要素の1つとなっているのです。

堺包丁は鍛冶、研ぎの製造工程を、専門の職人がそれぞれ行います。伝統職人の技によって、機械では作ることができない切れ味の良さを作り出すことができます。

## 自転車産業



本市では自転車産業も盛んです。自転車は明治時代に普及し始めましたが、当

時の輸入自転車は故障が多く、修理が必要になりました。そこで役立ったのが、戦国時代から、金属加工について豊かな経験と高度な技術を受け継いできた堺の鉄砲鍛冶でした。この鍛冶技術を生かして、輸入自転車の修理や部品製造にあたったことが、堺の自転車産業のはじまりです。現在でも、世界有数の自転車の部品メーカーが立地し、国内の製造品出荷額の約4割のシェアを誇っています。

また、日本唯一の自転車博物館があります。ここには、世界最古の自転車から最新のオリンピック出場車まで展示しており、大仙公園自転車ひろばでは、毎月第2・4日曜日と祝日にクラシック自転車のレプリカに体験試乗できます。

伝統のある産業が根付いているんですね。  
堺市では、スポーツ振興も盛んだとお聞きしましたが。

はい。本市では、市民がいきいきと健康的な生活を送ることができるよう、生涯をとおしてスポーツに親しみ、気軽に楽しむことのできる機会や場を提供しています。

4月1日に、臨海部に堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター（略称：堺トレセン）がオープンしました。これは、堺市が事業主体として、整備費約57億円をかけて建設した施設です。

敷地面積は約35ヘクタールで、サッカーフィールド14面、フットサルフィールド8面を備えています。メインフィールドは約3,000人収容可能な観客席を備えた天然芝のフィールドで、大規模大会にも対応できます。他にも、ラグビー・アメリカンフットボール・陸上競技でも利用できる400メートルトラック付人工芝フィールドや、ゲートボール・グラウンドゴルフができるスポーツ広場、約2.2kmのサイクリングコース、1周約2.4kmのウォーキングコースも併設しています。

日本で3ヵ所目、西日本では初、国内最大規模を誇るサッカーの交流拠点となります。

平成22年度は、関西社会人や学生連盟のリーグ戦など約6,400試合を行うことがすでに決定していますが、一般の利用受付も開始しています。

今後は、サッカーをはじめとするスポーツ・レクリエーションの活動の振興を図り、市民の皆様の健康づくりの場、サッカー日本代表チームの練習誘致や全国規模の大会の開催等、積極的な活用を推進していきたいと考えています。

## 堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター



非常に充実した施設で、今後が楽しみです。  
この堺トレセンのほかにも、臨海部の発展が目覚ましいですね。

「グリーンフロント堺」には、127万㎡という広大な敷地に、液晶パネル工場などが配置されているほか、関連工場・施設も集約されており、効率的な生産体制が実現される見込みです。3月末には薄膜太陽電池工場がオープンし、コンビナート全体が本格稼働します。

また、同じく臨海部では、関西電力株式会社と市が共同で、10メガワットの太陽光発電所の建設工事に着工しています。平成22年秋の一部稼働をめざしており、本格稼働すれば、本発電所で約2,500世帯分の電力を賄うことができます。グリーンフロント堺でも最大18メガワットの太陽光発電施設の設置が予定されており、これら二つの発電施設の出力をあわせると、国内最大規模の太陽光発電となります。

先に述べた堺トレセンとあわせて、平成22年は、臨海部を中心として、堺の新しいまちづくりがはじまるといえるでしょう。

グリーンフロント堺



臨海部を中心として、今後の大きな発展が期待できますね。

堺市では、子育て支援を充実させていると伺いましたが。

はい。本市の未来を担い、世界に羽ばたく次世代を育成するため、安心して子どもを生み、育てることができるまちづくりや、子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境を充実しています。

子育て環境の更なる充実のために、平成22年度から、子ども医療費助成を中学3年生までに拡充し、子育て世帯の負担軽減を図ります。また、保育所入所待機児童の解消に向けて民間保育所の創設・増改築

による定員増を実施するなど、子どもたちがいきいきと伸びやかに育つ環境を創出します。

さらに、子どもたちの学力や学習意欲の向上を図るため、平成22年度から放課後学習「堺マイスタディ事業」をモデル実施します。また、義務教育9年間の一貫した教育活動の実践や、IT機器などを活用した授業内容の更なる充実にも取り組んでいきたいと考えています。

これらの重点施策をはじめとする子育て支援施策の充実によって、「子育てするなら堺」といわれるようなまちづくりをしていきたいと考えています。

堺市の市民参加に関する取組を教えてくださいませんか。

今日、分権社会の進展に伴い、自治体運営に市民の意思を反映させることがますます求められています。また、市民ニーズは個別化・多様化しており、今後、市民・社会のニーズに応える公共サービスを提供するには、NPOなど多様な主体との協働のもと、まちづくりを進めていく必要があります。このため、本市では「堺市の施策事業における市民参加ガイドライン（案）」を策定しました。市民の視点に立ったまちづくりを進めるため、市民ニーズを的確に把握し、市政への反映を目的とした広聴活動を実施しており、その一つとして市長が市民と直接対話する「ふれあいトーク」や「元気！いきいき訪問」を行っています。

また、市民の声をデータベース化し、庁内で情報共有するとともにホームページに「市民の声Q&A」サイトを設け市民との情報共有も進めています。

さらに、市民のニーズを把握するためアンケート調査なども積極的に行っています。

また、地域レベルでのまちづくりに市民の意見を反映させるために、各区では、幅広い市民が参加する「区民まちづくり会議」を設置しています。ここでは、区域の特色を活かした魅力あるまちづくりを推進するために、様々な討議や意見交換を行っています。

本市は、このような取組を通じ、「市民、子ども、産業、まちが元気な堺」を目標に、市民の視点に立って、市民の皆さんとともに「協働のまちづくり」を進めていきたいと考えています。

「市民、子ども、産業、まちが元気な堺」が実現されるよう、一層躍進されることを期待しております。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。